# 教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

**木下和真・教育認知心理学・博士後期課程３年**

国際学会：MCLS(Mathematical Cognition and Learning Society)
THE NINTH ANNUAL CONFERENCE PADOVA2026
参加地・期間：イタリア パドバ　2026年6月23日～25日
発表題目：Visual number symbols and linguistic transparency:
Abacus–word transcoding in Italian

## 成果の概要

2025年6月22日から25日にかけてイタリア・パドバ大学にて開催されたMCLS PADOVA 2026に参加してきました。MCLSとはMathematical Cognition and Learning Society(数学認知学習学会)が主催する国際学会で、分野をリードする研究者が集います。私の研究テーマはそろばんで表現された数の認知処理であり、この学会は私の関心とぴったりと一致するものでした。そのため、発表は興味深いものの連続でした。また、論文でのみ名前を知っていた研究者があちらこちらで発表しており、その力強さに圧倒させられると同時に、強い刺激を受けました。

本学会では「Visual number symbols and linguistic transparency: Abacus–word transcoding in Italian」というタイトルで口頭発表を行いました。そろばんで表された数とイタリア語数詞のもつ特徴を利用して、数詞透明性があたえる数処理への影響を検証したものでした。発表がイタリア語数詞に関するものであり、学会開催地もイタリアであったため興味深く聴いてもらえたと思います。実際、帰国日に偶然出会った参加者が私の発表を覚えており「興味深かった」とのコメントをもらうこともできました。しかしながら、そろばんという計算道具に慣れ親しんでいない欧米の研究者にそろばんを利用した数認知研究の意義を伝えるという意味では多くの課題が残ったと実感しています。「フィンガー・カウンティング（指を使用した数え上げ）」と「そろばんの利用」は共通する部分が多いと考えていたため、フィンガー・カウンティングを利用した介入研究の発表者に質問したところ「あなたたちはそろばんを使用する文化をもっているが、わたしたちにその文化はない」との返事が返ってき、前提として存在する文化差を強く感じました。また、逆にそろばん熟達者がもつ暗算力に興味をもってもらう機会もありました。一人の著名な数認知研究者がその著書にフラッシュ暗算について言及していたため話しかけたところ、実際に見たことはないという答えが返ってきました。そのため、実際にフラッシュ暗算を披露したところ、小さな人だかりができ「どうやって計算しているの？」と質問されることになりました。この出来事はそろばん熟達者がもつ暗算力が数認知研究者の関心を引くことを知ると同時に、そろばんというものがほとんど知られていないことを知る機会ともなりました。

今回の学会参加で最も意義深かったことは、私の発表テーマと非常に似た内容を研究している研究者との出会いでした。彼はフランス語数詞が数処理に与える影響を研究しており、実験手法も私がこれまで使用したものと共通していました。学会終了後、彼とその研究室仲間とお酒を飲みながら議論する機会がありました。非常に楽しくもあり、今後につながる出会いだと感じました。

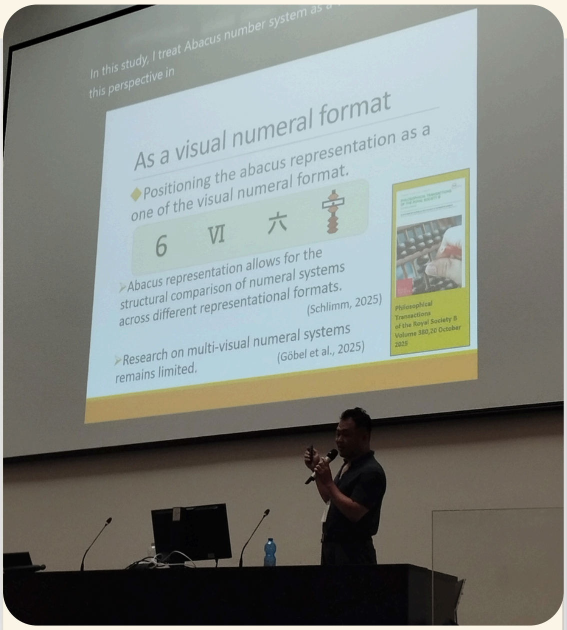
ヨーロッパで開かれたMCLSでは、日本の大学からの参加者は私一人でした。これは近年の円安、物価高騰により、渡航費や滞在費の負担が影響していると感じます。そのような状況の中、学会に参加し刺激を受け、人脈を広げる機会が得られたことは、本支援があったからにほかなりません。今後は、自身の研究を論文として出版することで、学会で得た経験がさらに活きてくる考えています。そのためにも日々の研究を前に進めて行くつもりです。最後になりましたが、この度の支援に対し心から感謝を申し上げます。

# 教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

**木下和真・教育認知心理学・博士後期課程 3 年**

国際学会：MCLS(Mathematical Cognition and Learning Society)
THE NINTH ANNUAL CONFERENCE PADOVA2026
参加地・期間：イタリア パドバ　2026年6月23日～25日
発表題目：Visual number symbols and linguistic transparency:
Abacus–word transcoding in Italian

## 写真・説明




口頭発表中の様子

(Web版では非公開)

参加者との交流、記念写真

会場パドバ大学心理学研究棟